

大和ハウス工業

大和物流が大和ハウス工業向けの輸送でT2の自動運転トラックを利用へ [🔗](#)

三井ホーム

令和7年度「木材利用推進コンクール」国産材利用推進部門で農林水産大臣賞を受賞 [🔗](#)

(一社)プレハブ建築協会

戸建て長期優良認定取得率84.9% [🔗](#)

大林組、竹中工務店、鹿島建設、フジタ

ソフトウェアの標準化技術を活用した建設ロボットシステムの研究開発に着手 [🔗](#)

YKK AP

窓一体型ペロプスカイトを電力系統につなぐ実装検証開始 [🔗](#)

今週のトピック解説

アルミの水平リサイクルへの取り組みが本格化

三協立山が資源回収ネットワークを結成

アルミの水平リサイクルに向けた動きが本格化してきている。

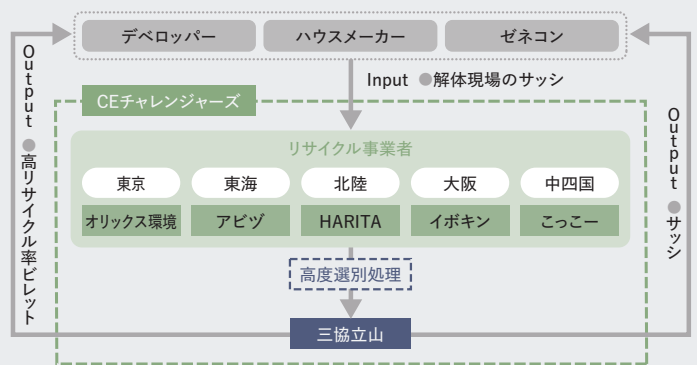
三協立山がアビヅ(愛知県名古屋市)、イボキン(兵庫県たつの市)、オリックス環境(東京都港区)、こっこー(広島県呉市)、HARITA(富山県高岡市)のリサイクル事業者5社と「サーキュラーエコノミー(CE)チャレンジャーズ」を結成し、10月28日より運用開始した。三協立山がスキームの全体構想を主導し、製品化を担う。

製造事業者の三協立山と、全国各地域のリサイクル事業者が連携することで、一貫した資源回収・リサイクルシステムを構築。これにより、商品の製造・流通過程を追跡する「トレーサビリティ」が可能になり、信頼性の高い環境配慮型製品へのニーズに対応する。また、アルミサッシの回収率向上と、高品質なリサイクル原料の安定確保も可能となる。

アルミサッシは1960年代から主要な建材として普及しているが、日本国内で回収されるアルミスクラップ年間約131万トン(推計)のうち、約4割にあたる46万tが海外へ輸出されており、国内循環利用が求められている。リサイクル事業者と一体となり、「CEチャレンジャーズ」として取り組むことで、解体工事から選別処理まで異なる事業者によって分断されていた工程を一括管理し、資源の有効活用を進める。

同社は「サステナビリティビジョン2050」で、30年度に建材向けアルミリサイクル率を80%にする方針を掲げる。一方で、「アルミリサイクルには様々な課題がある」(同社)とし、テーマごとに解決策を模索している。例えば、解体・改修店舗から複数のアルミ合金が混ざった状態で回収される課題には、セブン・イレブン・ジャパンと連携し、アルミ棚のみを選別して回収、良質なアルミスクラップを確保して新たなアルミ棚を製造する水平リサイクルを実現した。また、解体現場でアルミ建材を分別・回収できていない課題に対しては、明治安田生命、竹中工務店などと共同で実証も行っている。こうしたなかで、今回は国内のリサイクルルートが分断され、資源の流れが見えにくいという課題の解決を目的に「CEチャレンジャーズ」を結成。24年には同メンバーでの個別物件でのトライアルも

「CEチャレンジャーズ」のスキームイメージ



行っており、今後本格的なスキームの実現に向けて動きだす。

業界全体でアルミの再利用の動きが高まる

一方で、YKK APは10月31日より、リサイクルアルミ使用比率100%のアルミ建材「Re・AL(リ・アル)」の物件対応を開始。「Re・AL」は、市中リサイクル材と社内の製造過程で生じる端材を使用した、リサイクル使用比率100%のアルミ形材で、まずは、非木造建築向けビル用商品(窓、カーテンウォール)の受注生産対応からスタートする。

同社は30年度までに社外品リサイクル率100%を目指し、リサイクル材専用炉の導入などを進める。23年度に導入した四国製造所(香川県綾歌郡)は、24年度末にリサイクルアルミ使用比率が80%を達成、他拠点への導入拡大も計画している。

また、LIXILは、今年10月からリサイクルアルミの使用比率の下限を60%に設定した循環型低炭素アルミ形材「PremiAL(プレミアル)」を、自社で製造する全アルミ建材に標準採用、26年度末までに全商品への展開を完了する予定だ。自社採用だけでなく、これまでのシリーズ同様に外部販売も行い、31年度末までにリサイクルアルミ使用比率100%の達成を目指す。

新刊 省エネ基準の義務化へ 関連法令を一冊に集約

必携 住宅・建築物の省エネルギー基準関係法令集 2025

住宅・建築に関わる企業、地方自治体、
性能評価機関などに向けた必携の書